

子宮内膜症及び内膜症関連卵巣癌の発症メカニズムの解明

【研究の背景】

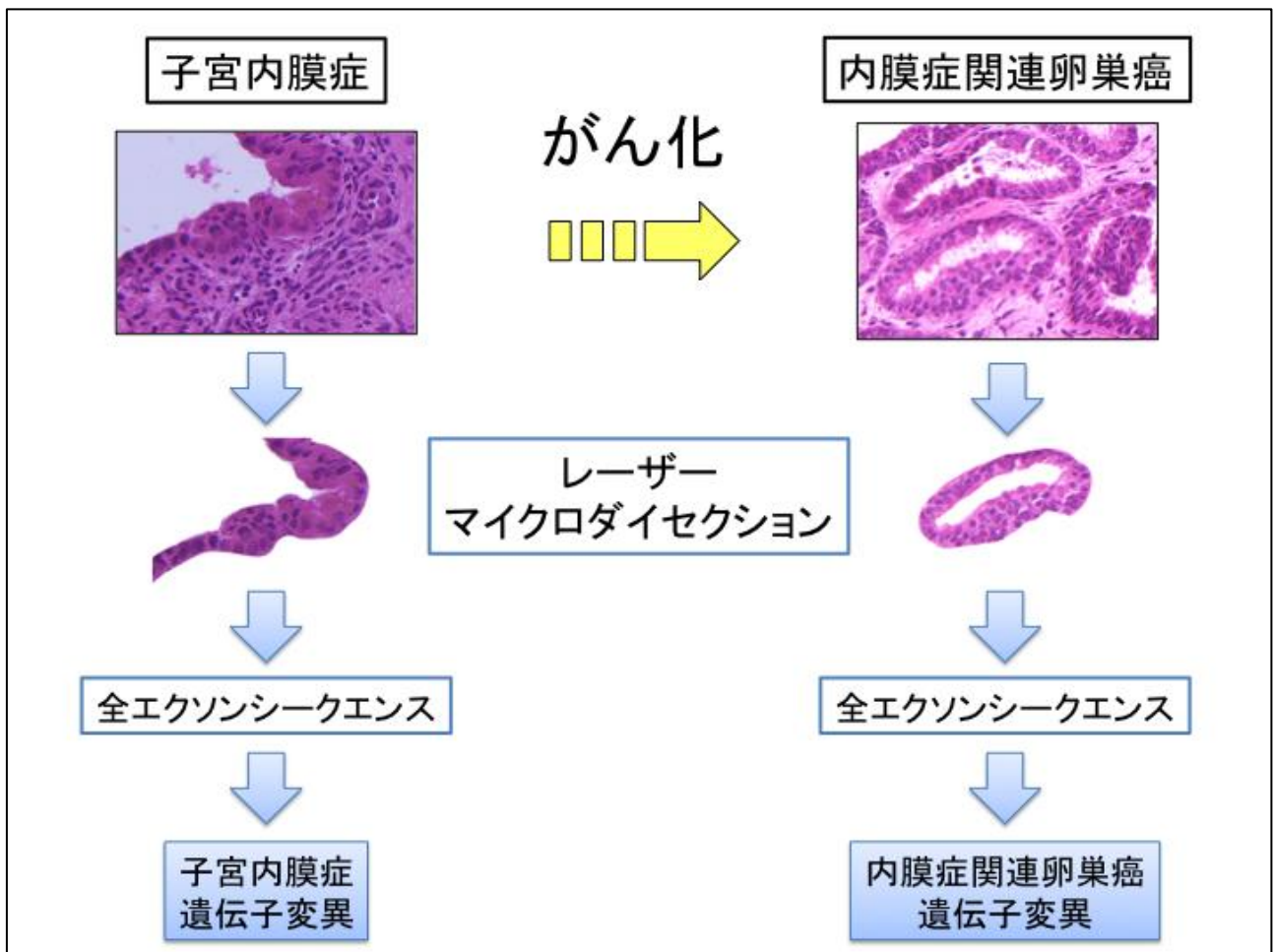
子宮内膜と同様の組織が本来の場所から離れた異所に増殖して発症する子宮内膜症は、欧米人に比し、日本人で多い疾患で、その頻度は成人女性の10-20%にもなります。本疾患は、月経困難症や不妊症を引き起こし、女性のQOLを著しく低下させるだけでなく、**数%の症例で卵巣癌（『内膜症関連卵巣癌』と呼びます）を合併することが知られています。**

最近の研究で、内膜症関連卵巣癌では**ARID1Aの遺伝子変異が30-50%の割合で存在することがわかってきましたが、子宮内膜症から卵巣癌が発生するメカニズムについては、まだ完全には解明されておられません。**

【研究の目的】

本研究では、子宮内膜症・内膜症関連卵巣癌の全エクソンシーケンス解析^{*2}を行うことにより、子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌の原因遺伝子を同定することを目的としております（図3）

*2. 全エクソンシーケンス解析：次世代シーケンサーを用いて、対象の細胞・組織の全遺伝子の変異の有無を調べる手法。例えば、がん細胞と正常細胞のDNAについて、全エクソンシーケンスを行い、がんと正常のシーケンスデータを比較することで、がん細胞に特異的な遺伝子変異を網羅的に調べることができます。



【これまでの成果】

- 子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌組織より、内膜症性細胞および癌細胞だけをレーザーマイクロダイセクションで切り出し、核酸を抽出する一連の手法を確立いたしました。
- 子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌の遺伝子変異プロファイルを作成し、それぞれの疾患に特異的な遺伝子変異を同定しています。

【今後の研究】

現在、子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌の全エクソンシーケンス解析を追加しており、今後子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌の原因遺伝子の同定を行い、子宮内膜症から内膜症関連卵巣癌への発症メカニズムの解明を進めていきます。